

乙事諏訪社に 「帳納屋」完成

富士見町
乙事区

富士見町の乙事区が乙事諏訪社境内の建物「帳納屋」を建て替え、4月6日に竣工式を行う。帳納屋は1948年の火災で焼失し、翌49年に再建したが、その建物も築70年余が経過して傷みが著しくなり、区民の意見を基に現地建て替えを決めた。乙事出身の藤沢昭和・ヨドバシカメラ会長から支援を受けた。広い多目的室を備え、御神楽や木やり、作品展など、住民同士の交流や地域活動の場としても活用していく考えだ。(鮎沢健吾)

4月6日に竣工式



火災後に再建した建物は管理事務所として長年使ってきたが、老朽化により近年は使用していなかったという。昨年9月の同神社御柱祭までに取り壊し、御柱後に新築工事に着手。呼び名については社務所、帳屋、舞屋なども検討したが、古くから集落で使われてきた帳納屋とした。

木造平屋建てで、床面積は54・8平方メートル。はき出し窓を全開放すると舞台のようになり、竣工式当日はこけら落としの御神楽(獅子舞)を繰り広げる。常駐はしないが、出

↑

富士見町乙事の乙事諏訪社境内に完成した帳納屋(左)。4月6日に竣工式を行う

(右奥は社殿)

窓を付け、祇園祭(7月)や二年参りなどの際に御朱印を頒布できるようにした。横木に付ける山型の部材「かえる股」は旧建物から引き継ぐ。

乙事諏訪社は諏訪神社上社の旧社殿を移築。昭和の初めには拜殿・幣殿が国宝に指定された。48年の火災で焼損するも住民の熱意によつて復元再建され、現在は重要文化財になっている。

竣工式は午前10時から。記念碑の除幕や区民向け内覧会も予定している。五味俊区長は「多くの方々のご支援により、雰囲気のある帳納屋ができた。新型コロナウイルスで地域活動や住民同士がつながる機会が減ってしまった中、コミュニケーションの場として活用していきたい」と話している。